

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年12月21日（火）

2 確認箇所

新事務本館執務室（机上説明）

Fタンクエリア

3 確認項目

5／6号機滞留水処理設備N5タンク水位上昇事象の状況

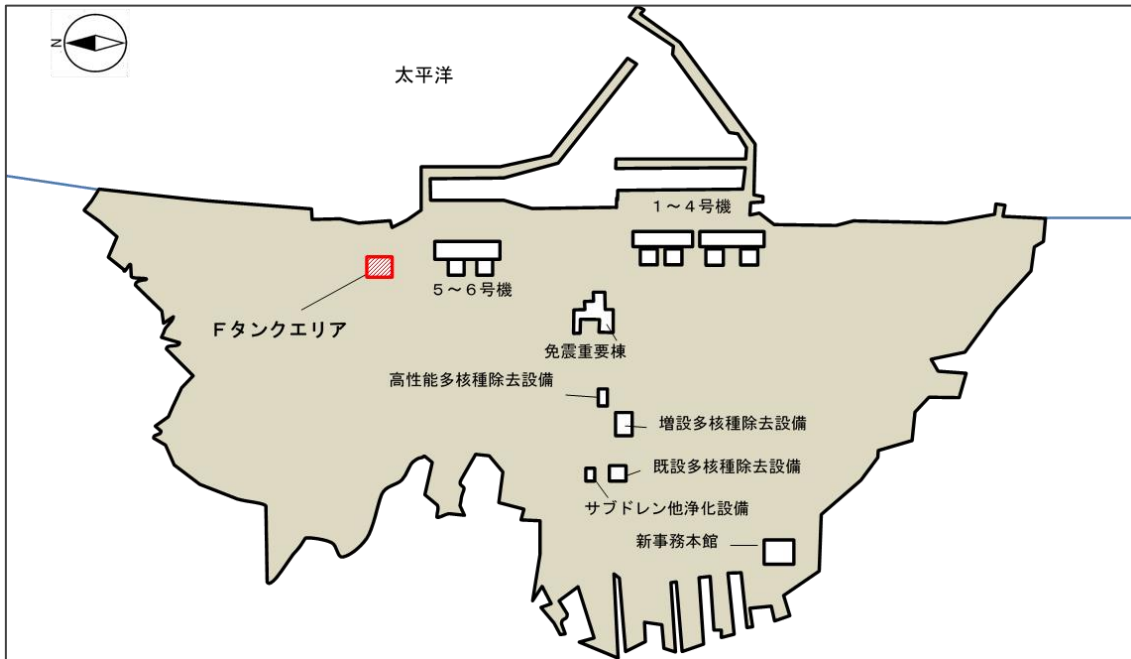
4 確認結果の概要

構内北側に位置するFタンクエリアでは、5／6号機建屋周辺の地下水が建屋内に流入した水（以下「滞留水」という。）の貯留、浄化処理が行われており、浄化処理された滞留水は放射能分析を行い、散水基準を満足していることを確認した後に構内において散水されている。（図1）

令和3年11月25日、5／6号機滞留水処理設備の浄化処理された水が貯留されているN5タンクの水位が前日（11月24日）の散水後よりも50mm程度上昇していることが確認され、11月24日の散水時に、タンク内包水の放射能分析が実施されていないN2タンクの水がN5タンクに流入し、分析前の水が散水された可能性があることが確認された。そのため、東京電力から事象発生原因と今後の対応を聞き取るとともに、現地にて状況を確認した。（写真1）

- ・東京電力ではN2タンクとN5タンクを連結する弁の一時的なシートパス※が事象発生原因であると推定しており、設備面の対策としてN2タンクとN5タンクを連結する弁の二重化を計画しているとの説明があった。また、運用面の対策として作業を行う際には前日の作業終了後から当日作業開始までのタンクレベルに有意な変化がないことを確認するとともに、浄化水をタンクに受け入れしている間は、別タンクからの散水はしない計画にするとのことであった。
- ・現地確認時、N2タンクとN5タンクの出口弁は「全閉」となっており、散水は実施されていなかった。（写真2）
- ・東京電力によると、11月24日の散水時に混入した可能性のあるN2タンクの水についても11月27日に放射能分析を実施し、散水基準を下回っていることを確認したとのことである。

※シートパス 弁の開閉部に異物の挟み込みや摩耗等が発生し、内部を流れる流体等の流れを完全に止めることができなくなる事象を示し、「シートリーク」とも言われる。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
Fタンクエリア外観
(南側から撮影)



(写真2-1)
N2タンク出口弁の状況
(散水が実施されていないため、「全閉」となっている。)



(写真 2 - 2)

N 5 タンク 出口 弁 の 状 況

(散 水 が 実 施 さ れ て い な い た め 、
「 全 閉 」 と な っ て い る 。)

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。